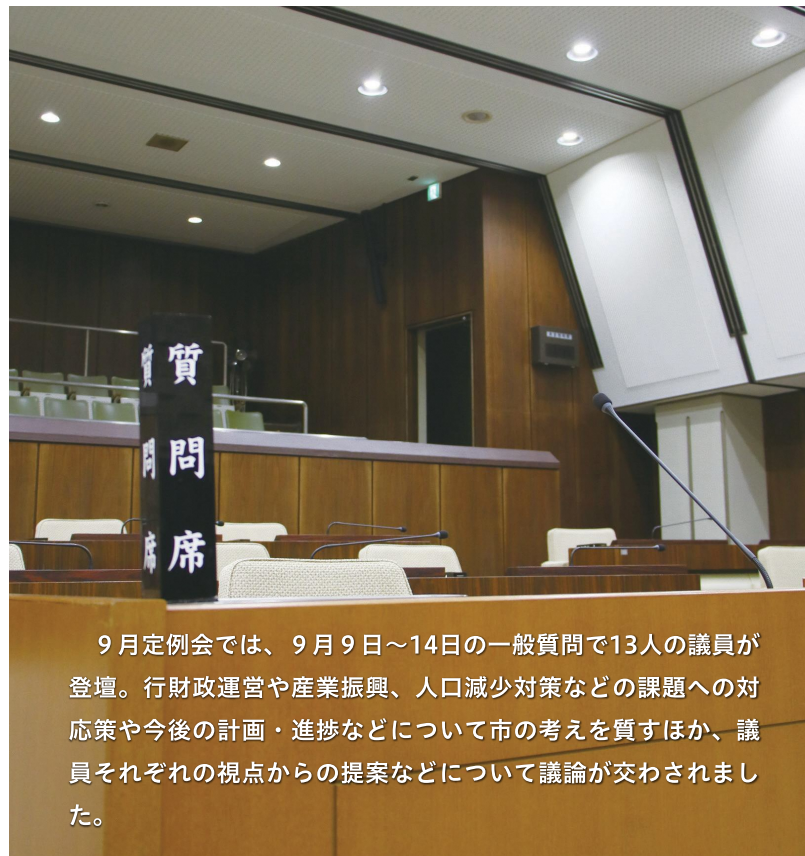




9月定例会では、9月9日～14日の一般質問で13人の議員が登壇。行財政運営や産業振興、人口減少対策などの課題への対応策や今後の計画・進捗などについて市の考えを質すほか、議員それぞれの視点からの提案などについて議論が交わされました。

※各議員の二次元コードから一般質問の録画放送をご覧になれます。
※文責はいずれも本人です。

一般質問

令和8年9月定例会

一般質問とは

議員が市政運営全般にわたり、その執行の状況や将来の方針、考え方などを市側に質し、答弁を求めることをいいます。平戸市議会では定例会毎に実施しており、答弁時間を含めて、1人あたり60分の持ち時間が与えられています。

議員 初めに、市長は就任後約1年を迎えようとしているが、理想と現実のギャップをどのよう
に感じているか尋ねる。

市長 就任後、間もなく1年を迎える。この間、市長として市政を担う中で就任前には見えなかった課題や想像以上に厳しい現実を身を以って感じている。人口減少、第1次産業の厳しい環境、地域交通、医療、子育て、若者の定着や移住定住など、市民生活に直結する課題は山積している。

議員 市民にとっての最大の魅力ある自治体としての、構造改革を図るべき組織全体への透明な対話とビジョンの共有、なぜ今やり方を変えなければならぬのか、本質の論議なくして課題の解決は厳しい。密室で決まるものでもなく、変化を恐れず未来を切り開くことができるものこそが、真のリーダーではないのか。



タウンミーティングの様子



●行財政運営について
市民の会 竹山 俊郎



録画放送

市長

私が市長になった原点は、ふるさと平戸をよくしたい、次の世代につなぎたいという思い。現実の厳しさを知った今だからこそ、その責任をより強く感じている。どうすればできるのかを考え、市民の声を聞き、共に汗をかき、一つひとつの課題も乗り越えていく。厳しい現実には終わりのない、新しい平戸をつくるための出発点と捉え、平戸市の市長として最後まで責任を持ってかじを取っていく。

審議された案件と結果

令和8年9月定例会 ○議案 27件 ○報告 3件

○議案

番号	件名	結果
62	令和7年度平戸市一般会計決算認定について	継続審査
63	令和7年度平戸市国民健康保険特別会計決算認定について	〃
64	令和7年度平戸市後期高齢者医療特別会計決算認定について	〃
65	令和7年度平戸市介護保険特別会計決算認定について	〃
66	令和7年度平戸市農業集落排水事業特別会計決算認定について	〃
67	令和7年度平戸市あづち大島いさりびの里事業特別会計決算認定について	〃
68	令和7年度平戸市駐車場事業特別会計決算認定について	〃
69	令和7年度平戸市工業団地事業特別会計決算認定について	〃
70	令和7年度平戸市水道事業会計剰余金の処分及び決算認定について	〃
71	令和7年度平戸市病院事業会計決算認定について	〃
72	令和7年度平戸市営交通船事業会計決算認定について	〃
73	平戸市認可地縁団体印鑑条例の一部改正について	原案可決
74	平戸市営バス事業の設置等に関する条例の一部改正について	〃
75	平戸市印鑑条例の一部改正について	〃
76	平戸市後期高齢者医療に関する条例の一部改正について	〃
77	平戸市福祉医療費の支給に関する条例の一部改正について	〃

番号	件名	結果
78	平戸市営交通船事業の設置等に関する条例の一部改正について	原案可決
79	平戸市職員の特殊勤務手当に関する条例の一部改正について	〃
80	令和8年度平戸市一般会計補正予算（第2号）	〃
81	令和8年度平戸市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	〃
82	令和8年度平戸市介護保険特別会計補正予算（第2号）	〃
83	令和8年度平戸市水道事業会計補正予算（第1号）	〃
84	令和8年度平戸市病院事業会計補正予算（第1号）	〃
85	令和8年度平戸市営交通船事業会計補正予算（第1号）	〃
86	平戸市一般職の職員の給与に関する条例の一部改正について	〃
87	平戸市固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて	〃
88	平戸市教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	〃

○報告

番号	件名	結果
8	令和7年度決算に係る健全化判断比率及び資金不足比率の報告について	報告済
9	一般財団法人平戸市振興公社の経営状況を説明する書類の提出について	〃
10	令和7年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等の提出について	〃

各種研修レポート

7/3

議会改革に関する研修会～可児市議会の改革に学ぶ

伊万里市民センター（伊万里市）において、「地方自治を学び合う会まり」が主催する「議会改革に関する研修会～可児市議会の改革に学ぶ」が開催され、平戸市議会からも参加しました。

- 講師 川上文浩氏（岐阜県可児市議会議長）
- 主要内容 ▶チーム可児市議会の取組
 - ▶議会改革の歩み ▶監査力を生かす議会
 - ▶市民福祉向上のための4つの議会サイクル

8/21

長崎県市議会議長会議員研修会

出島メッセ長崎（長崎市）において、「長崎県市議会議長会」が主催する議員研修会が開催され、平戸市議会からも参加しました。

- 講師 北村純一氏（議会事務局実務研究会）
- 主要内容 地方議員のための安全なSNS発信と生成AI活用

●心にあかりを灯す施策を！

新波クラブ 針尾 直美



録画放送

議員 4年前、市主催のワークショップ「あかりのまちづくりを学ぼう」に参加し、照明で「まちの見え方」が変わることを実感した。その後、市は、計画やガイドラインを策定したが、実施が遅いと感じる。計画はどうなっているのか。

建設部長 調整などに時間を要していることを理解いただきたい。夜間景観形成方針に基づき、まずは、修景家屋が集まる崎方町を中心とした整備を1つの事業とし、令和10年度を目途に整備する。

議員 佐世保特別支援学校本校への通学は、平戸市が通学支援車両を出しているとのことだが、分校への通学支援はどのように行っているのか。

教育長 長崎県の就学奨励費の適用で、福祉タクシーを利用して通学支援を行っている。保護者からの相談を受け、距離や家庭の事情などを考慮し教育委員会で選定。最終判断は県が行う。ヘルパー派遣

議員 市内小中学校の修学旅行は、どの方面へ行っているのか。

教育長 小学校は長崎市内、中学校は九州内および関西方面。

議員 修学旅行の下見は実施しているのか。

教育長 下見は実施していない。

議員 安全対策や危機管理はどうしているのか。

教育長 危機管理マニュアルを策定し、旅行会社や現地の各関係機関と連携しすばやく対応できるように危機管理体制の充実に努めている。

議員 知床事故後、遊漁船や海上タクシーなどの法律が改正されたが市としての認識は。

農林水産部長 遊漁船においては3点改正され、さらに小型船舶免許制度においても変更がなされた。

総務部長 海上タクシーにおいては4点改正があった。

議員 これらの管轄は県や国の機関となり、市の部局もそれぞれ異なるが市として横断的な支援体制

は、市が支援している。

議員 本校への通学支援について、現行の乗車場所では、雨風を十分にしのげない。車いす利用者や体調面に配慮が必要な児童生徒が悪天候時にも安全に待機・乗降できる環境が必要ではないか。

福祉部長 現状を確認した上で、関係部署と連携し、安全が確保でき、利用に際し支障の少ない場所について研究したい。



通学見送り風景のイメージ



録画放送

の取り組みは可能か。

副市長 組織として支援体制を構築するには慎重に考える部分があるが、既存の連携体制が難しい状況であればより効果的な支援のあり方を検討する。

議員 市内施設にネーミングライツ（命名権）を導入し新たな財源確保策として取り組めないか。

財務部長 新たな財源の確保におけるひとつの取り組みとして考え、他の自治体の事例も参考にしながら制度導入に必要なものを調査・研究していく。



修学旅行のイメージ

●国内観光客重視の観光戦略を
●まちづくり運営協議会の
位置づけと重要性を問う

新時代 原野 育朗



録画放送

議員 令和7年の観光客は約129万人と、昨年からさらに減少している。基幹産業の1つである観光産業について、現状と今後の取り組みをどう考えているのか。

市長 観光客減少の原因について、外的要因だけではなく、市の施策の反省点を把握するとともに「観光振興懇話会」において、平戸市の観光のあり方を研究していきたい。

議員 平戸市の観光戦略は「国内観光客重視」であるべきと考えるが、観光課の考えは。

文化観光商工部長 国内誘客を重視すべきという考えは同じである。平戸観光協会と連携しながら、国内市場を重要な柱として位置づけ、インバウンド施策と併せて誘客に取り組む。

議員 地域課題の解決を担っている「まちづくり運営協議会」は公共性の高い組織と位置づけるべきではないのか。



平戸市観光パンフレット（最新版）

●本市の介護職員不足の現状を問う
●児童の泳力向上を目指して

是非の会 松口 茂生



録画放送

議員 本市の介護職員不足の状況をどう認識しているか。また人材確保・処遇改善をどのように行うのか。

市長 介護需要を支える人材の確保は、極めて深刻な問題と認識している。介護従事者の確保・育成・定着・負担軽減を一体的に進め関係機関と連携し持続可能な介護サービスの確保に取り組む。

議員 平戸市介護職員人材確保支援事業の拡充の考えはないのか。

福祉部長 費用対効果および他職種との均衡も踏まえ判断していく。

議員 外国人雇用の経費補助の検討は出来ないのか。

福祉部長 既存制度の対象とならない経費や事業者負担の実態を把握した上で、市独自の補助の必要性を検討していく。

議員 水難事故から命を守る観点からも児童の泳力向上は重要と考えるが、どのような授業内容か。

教育長 自己保全の視点から、低・

市長 行政とともにまちづくりを進めていく公共性の高い団体と認識している。

議員 まちづくり運営協議会の交付金における、3年ごとの見直しについて、どう考えているのか。

財務部長 人口減少、地域課題の増加などにも注視をしながら見直しを行う予定であるが、市としてどのような支援ができるか併せて検討する考えである。

中学年ではもぐる、浮くなどの基本的な動きの経験を積み重ねている。高学年では「安全確保につながる運動」として続けて長く浮く事ができる運動に取り組んでいる。

議員 大島小学校のプールの維持が困難な場合、大島・度島の子どものために夏休み期間中、平戸桟橋からシーライフひらどまでの送迎を行うなど支援を考えるべきではないか。

教育次長 離島の児童を対象にした送迎については、対応の可能性について研究したい。



シーライフひらど

● がん検診、特定健診の受診状況、取組みは
● 市営住宅の整備計画及び平川線・
福崎線道路改良について問う
新波クラブ 吉福 弘実



録画放送

議員 市長は市民の健康を守って

いくための取り組みをどう考えているのか。ある日突然、脳梗塞、心筋梗塞で命を落とされる人もいれば、現在では2人に1人はがんになると言われている。すい臓がんの早期発見につながる検診を実施すべきでは。

市長 市民一人ひとりが健康で暮

らせることを第一と考える。がんの早期発見に努め健康寿命の延伸に努めたい。すい臓がんの検診について、国・県の動向を注視し市としても検討する。

議員 物価高騰で農業者も大変厳

しさが増しているが、市長が言っている大事な1次産業を守っているためにも、市独自の支援策が必要ではないか。

市長 市の基幹産業である第1次

産業を守るため、財政が厳しい中でもどのような支援が必要か検討していく。

議員 田平東小校区に下亀団地、



市道平川線

里団地があり、児童確保のため建設された経緯がある。令和11年度で現在の市営住宅の建設計画の期間が終了し、次期計画の策定期とのことだが、この住宅を次の建設計画に取り組むべきでは。

市長 議員から提案されたさまざまな意見を勘案しながら検討したい。

議員 市道平川線、福崎線の整備の必要性をどのように捉えているのか。

建設部長 平川線については、国の交

付金事業を活用し令和10年度に着手し、11年度に測量設計、用地交渉、12年度に着工を予定している。福崎線については平川線完了後に着手予定である。

● 異常気象による
市民生活への影響と対策
● 防災無線の活用具合は
是非の会 池田 稔巳



録画放送

議員 近年の異常気象がもたらす

各分野への影響と対策を尋ねる。

市長 各地で農業用ため池の貯水量が減少し、特に水稻栽培で影響が出ている。平戸市千害応急対策事業などを活用していただき、今後も生産管理体制強化への取り組みとして、国や県、農業協同組合などと連携していきたいと考えている。

水道局長 ダムなどの9月7日現在

の貯水率は81・2％であり、今後不適時適切に対処していく。

教育次長 学校での猛暑対策として、

まだ空調設備が整備されていない特別教室などは、令和9年度から令和11年度までの3年間で、全ての小中学校で整備を進める計画である。また、学校体育館や社会体育施設ではスポットクーラーや大型扇風機で熱中症対策に努めているが、他にクールダウンゾーンの設置も有効と考えている。

議員 防災無線の活用状況と戸別



防災無線スピーカーと戸別受信機

受信機の状況は。
総務部長 防災無線の使用回数は全市合計で年間1千630回。音量など放送に対する苦情などもあるが、広く周知する必要性を理解していただきたい。戸別受信機については公共施設などで557台、一般世帯が1万765台であり、価格は1台税抜き4万5千円かかっている。また、店舗でも条件が合えば設置可能となっている。ひらどナビの活用を促進し、登録の増加に向けて推進する必要があると考えている。

議員 平戸検定の復活を望む声がある。

文化観光商工部長 協力できること

があれば検討していきたい。

● タウンミーティングを終えて
● 平戸港の整備・活用は
● ライフカントリーの整備は

政和会 岡 康則



録画放送

文化観光商工部長 国指定史跡の区

域で一定の制限があるが、平戸の歴史的景観に配慮した安全対策に取り組みたい。

議員 ライフカントリーの冒険ラ

ンド・草スキー場などが利用されていない。何年も進展がないが再整備の考えは。

教育次長 市民アンケートを実施し

た結果を踏まえ方針を見出したい。
議員 子育て世代に喜ばれる公園化と観光施設としての展望デッキを設置しては。

教育次長 たたき台の1つとして生涯学習推進本部幹事会の中で検討

したい。



平戸オランダ商館

議員 ふるさと納税寄附額の回復

の兆しが見えておらず減少が止まらない。改めて、平戸市としての認識と、現状の課題を解決できる人材、組織が必要ではないか。

総務部長 ふるさと納税は、平戸市

の魅力在全国に発信し、貴重な自主財源を確保するための極めて重要な施策である。しかし、全国的な寄附獲得競争の激化や返礼品送付・広報業務などの多様化・高度化に伴い課内の多忙化が進み、現行の管理体制では施策のさらなる飛躍や戦略的な推進には一定の限界が生じていると認識している。来年4月の組織改編に向け、現場の負担軽減と事業効果の最大化を両立できるよう、実効性のある最適な推進体制について具体的な検討を進めたい。

議員 「高齢者いきいきおでかけ支

援事業」は、制度創設後、一定期間が経過し、高齢者の間でも好評で定着しているが、今後もこの形



交通弱者の送迎風景

のまま継続していくのか。また、おでかけ券とは別に、現状の燃油や物価高騰、交通弱者への配慮などを踏まえた、新たな支援を検討する考えはあるのか。

福祉部長 「現状の物価高騰や交通弱者への配慮などを踏まえた、新たな仕組みづくり」は、現段階で具体的な協議を行っていない。事業の大きな転換でもあるため、庁内や関係機関との協議、検討が必要になると考えている。

● 今夏の干ばつによる被害状況と
その支援策は

● 少子高齢化・人口減少の問題点は

新蒼会 山田 能新



録画放送

議員 梅雨明け以降まとまった雨が降っておらず、渇水による被害が、水稲をはじめとする農畜産物に大きな被害をもたらしている。その被害状況と支援策を尋ねる。

市長 7月6日から9月4日までまとまった降雨がなかったため、干ばつが発生しており、水稲や飼料作物など多岐にわたって被害が発生している。市としては緊急に平戸市千害応急対策事業を実施し、井戸の掘削や揚水ポンプの購入などに対し支援を行う。

財務部長 人口減少で市税や普通交付税も現行制度のままだと減少することが想定されるので、財政健全化計画を策定し、財政の健全化に向け取り組んでいく。

総務部長 少子化や人口減少の進行に伴い、土木・建築・電気といった専門技術職や保健師は、構造的な採用難が顕著になっている。高校への直接訪問を通し、平戸市職員としての魅力を発信するなど、地道な取り組みを進める。

議員 少子高齢化・人口減少が進む中で、今後さまざまな問題が起きることが予想されるが、問題解決策はあるのか、各部長に尋ねる。

病院局長 今後の経営見通しについては人口減少に伴う患者数の減少で入院・外来収益が減少し、病院経営は一層厳しくなるものと認識している。今後は経営の健全化と地域医療の継続という困難な課題の両立を目指して行く。



渇水で底が見えている神ノ池(大石脇町)

● 適切な道路の維持・整備を

● 離島緊急搬送の前払い制の改善を

● まち協をつなぎ交通空白地域解消を

新時代 大村 謙吾



録画放送

議員 市民の期待と行政の対応力にギャップがある。除草陰切りなどの道路維持管理に機械化が必要ではないか。

市長 省力化の方法を研究するとともに、市民参加型の維持管理を一層進めて行きたい。

議員 国道383号線・県道19号線の未改良区間整備を国・県へ働きかけるべき。

市長 南北幹線道再整備の将来像を描き、国県道除草陰切りも含め県とも早期に協議の場を持ちたい。

議員 離島の救急搬送について将来的な持続性を問うとともに、船舶運賃の前払いの改善を求める。併せて総合的な離島対策検討委員会の再開を求める。

消防長 5年後・10年後を見据えるとき大きなリスクを抱えている。空路・海路を組み合わせた次世代の搬送体制の検討を進める。

市民生活部長 移送費の支払いは健康保険法に基づき償還払いとして



陰切りのイメージ

● 消防体制強化への考えを質す
● 業者指名審査の改善状況は

是非の会 松尾 実



録画放送

議員 消防出張所の適正配置について、9月議会に予算計上、議案として上がっていない理由、今後の市長の考えは。

市長 議会や地域のさまざまな立場からの意見を踏まえ、持続可能な消防救急体制について引き続き慎重に検討している。消防救急体制の再編については、市内全体の消防出張所の適正配置に向けた協議を進めている。今後については、施設の状態を見極めながら、新設、更新、改修などさまざまな選択肢を含め、適切な対応方針について検討を進めたい。

議員 業務委託の件で、実績要件の見直しや指名審査の改善について、具体的にどのような検討、改善を実施したのか。

副市長 指名業者の選定要件は、過去の実績、その根拠などが必要と考え、発注課が入札依頼の際に提出する委託業務選定調査において、特に実績を求めるものについては、その理由について法的根拠も踏まえ記載をするように指名審査委員会の中で協議し、運用を変更した。

議員 小学校学校給食費が無償となる一方、中学校学校給食費には保護者負担が残っている。物価高騰の中、子育て世帯の負担を軽減するため、国の制度を待つだけでなく、市独自で無償化すべきではないか。

市長 保護者から、中学校でも学校給食費の無償化を求める声があるが、全国一律で国が制度化すべきであり、現時点で市独自に実施する考えはない。

議員 平戸市の豊かな自然を継続的に調査・研究し、保全と農林水産業、観光など地域振興に生かす体制を。

市長 調査研究成果を積み重ね、「平戸の自然誌」の統編につなげることも必要である。

議員 子どもの人数が増えるほど負担が増す国民健康保険税の均等割に、平戸市独自の軽減を。

市長 県内の保険税統一が進む中、平戸市としての独自助成は難しい。

● 中学校学校給食費無償化を
● 平戸市の豊かな自然を次世代へ
● 国保税の軽減や農業経営継続のための支援を

日本共産党 岡村 文雄



録画放送

議員 老朽化した農業用ハウスの修理を支援し、今いる農家が農業を続けられる制度を創設できないか。制度からこぼれる市民にも目を向け、安心して暮らし続けられる平戸市となるような支援策を求める。

農林水産部長 市単独の制度拡充は困難。県の要件緩和を注視する。



豊かな自然が映える、川内峠からの展望